



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第6号
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77402
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市生活圏勢力圏社会接触圏（ツヅキ）。
File Information	N010_01S28.pdf



[Instructions for use](#)



HIGH CLASS
NOTE BOOK

都市社会学

二十八年度

特殊言语讲义

第四卷 第六号

都市生活圏势力圈社会
学研究会 (社) 刊

Handwritten marks and stamps at the bottom right corner.

1. 都市生活圏
勢力圏
格闘圏

⑥

文化地区は固化的な形質を有し、これを社会
 を基礎としてその範囲を同一の形質と
 して、個人の行動即ち文化を形成する
 事によつて、あるべき地区である。これを社会
 地区と呼ぶ。また、この社会地区の形成は、
 基礎となるもの、即ち交通、郵便、集約、
 居住、地区である。即ち交通、郵便、集約、
 居住の四つの少くも一節に固着して、これを社会
 地区と呼ぶ。この社会地区の形成は、
 市域に於いて、同一である。即ち、
 市域に於いて、同一である。即ち、
 市域に於いて、同一である。即ち、

市域に於いて、同一である。即ち、

又、これを社会地区は、既に述べた通り、
 個人の行動、即ち交通、郵便、集約、
 居住、地区である。即ち、交通、郵便、
 集約、居住の四つの少くも一節に固着して、
 これを社会地区と呼ぶ。この社会地区の形成は、
 市域に於いて、同一である。即ち、
 市域に於いて、同一である。即ち、

これは文化地区及び、これを社会地区の形成
 社会的な形質を有し、これを社会地区の形成
 地区は交通、郵便、集約、居住の四つの少くも一節に固着して、これを社会地区と呼ぶ。

決定するもの、即ち交通、郵便、集約、
 居住の四つの少くも一節に固着して、これを社会地区と呼ぶ。
 この決定は、個人の行動、即ち交通、郵便、
 集約、居住の四つの少くも一節に固着して、これを社会地区と呼ぶ。
 市域に於いて、同一である。即ち、
 市域に於いて、同一である。即ち、

外国人の高級な社会地区の形成
 市域に於いて、同一である。即ち、
 市域に於いて、同一である。即ち、

これは交通量は増して行く

小人が未だすまてある(本) 結果としての

指路量地区は勢力圏(以て) 漸次に適用

水ね(よ) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

交通(区) 交通(区) 交通(区) 交通(区)

地理の知を地理学と云ふは、
地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、
地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、
地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、
地理学の知を地理学と云ふは、

最上

即ち

地理学は、地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

地理学の知を地理学と云ふは、

最上

に役をたす

少しは概念の整理をせよ
都市をとりまいて
多様な社会の社会圏は多様な
ものにあり得るべきである
か(その)

従来、都市生活圏、又はメトロポリ
タンエリアを中心とした概念によ
る底の整理がなされてきたが、
次の様な形でも整理する事に
決意をたす()

此の旨

奥井後五郎氏の著する『都市生活
圏』調査は甚大周知であるが、
都市生活圏を構成する諸の
因子を認め、その各々について調査した

果をまじしけし。

1. 法律因子 - 都市計画地域、市街地

建築物取締長、借地法借家法（施行地法）

2. 郵便因子 - 電話法、町区法区域

運送便配達区域

3. 社会的因子 - 百貨店、名料配達区域

新田市の町区法区域

4. 交通因子 - 定期券交通区域、
町区法交通区域

町の区法交通区域

4の区法交通区域

一部区法の町区法の施行区域

町区法の町区法の施行区域

かくの如き「昔の録」あり。その「記」は「米」
を予て「し」と「斤」とを定むるは「者」然ら
ず。けれども「多」の「金」を「以」て「量」
たる「統」け「計」る「位」階「層」と「小」と「大」
あり。この「計」の「依」る「や」や「高」同「が」計る
「上」の「規」計「の」基礎と「た」る「道」には「其」
「物」の「時」は「か」入「る」形と「す」。
是の「奥」界「の」あり「た」四「の」因子の「内」
「一」は「市」販「と」同一「の」先法「の」種と「か」
その「切」差まで「及」ぶ「と」其の「意」味「の」表は
「て」ある。それは「是」の「都」市「先法」の「種」
と「名」づけ「た」。よ「う」て「あ」る「け」れ「ど」し

生活に於ける

④ 都市は左の二つの社会圏の外に都市を

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

4の定数若くは定数は過剰なものである

の分布地域である、他の定数は過剰な

的であり、都市に依存する地域の

面を占める人の分布地域である。

これは都市生活地域ではなく都市

依存地域である。人の定数は過剰な

ものである、その中心の都市を以て

他の都市との交流の媒介の機能を担い、

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

交流の媒介の機能を担い、その中心の都市を以て

その中心の都市を以て他の都市との

この
は上下関係に於ける支配であつてその結果

この
は上下関係に於ける支配であつてその結果

支配は主たる権の行使に支配関係の結節

となつて、この場合、社会的な交流の結節としての

支配の

日一ろんやこれに於ける権限結節であるが、その

の傘下には、同様に支配の同様なもの

都市には当然に支配(差)がある。

次の都市より支配して居るものは

な一か、その勢力下に置けるものは

である。この場合、この支配の範囲である。

これは支配して居る圏の中心に於ける都市が

に指さすし、その圏である。その中心に於ける

送丹花取の地、その圏の中心に於ける

地である。その圏の中心に於ける

以上の概ん吾人は次の五種の都市圏を考へてみるべきである。

一、都市生活圏 都市生活圏 都市圏 都市圏 都市圏

二、都市圏 都市圏 都市圏 都市圏 都市圏

三、都市圏 都市圏 都市圏 都市圏 都市圏

四、都市圏 都市圏 都市圏 都市圏 都市圏

五、都市圏 都市圏 都市圏 都市圏 都市圏

一、都市生活圏 都市生活圏 都市生活圏 都市生活圏 都市生活圏

都市

郊外は都市生活圏として理解する
ものであり、郊村は都市生活圏
内の村落に属する小規模の集落
なり。

の外周として知らしめるべきであ
る。このようにして都市生活圏の分析
による決定は、^{都市生活圏}の分析による。
二、都市生活圏は、^{都市生活圏}の分析による。
居住地の圏であり、その制約として
改められるものは、^{都市生活圏}の分析による。
そのためには、^{都市生活圏}の分析による。
の圏に、そのための制約を認めることは
あまりに、^{都市生活圏}の分析による。
この圏が、^{都市生活圏}の分析による。
け、^{都市生活圏}の分析による。
こそ、^{都市生活圏}の分析による。
#

五 都市勢力圏

ラ、ケ、ア、新、同、映、送、新、同、之、の、圏、下、也、
ニ、エ、任、職、業、自、由、を、社、會、し、た、り、力、
た、い、ぬ。ラ、ケ、ア、能、取、ち、同、新、同、踏、後、を、
國、は、是、れ、の、エ、リ、ヤ、で、あ、ら、う。然、し、其、に

又、ス、コ、ロ、ン、ケ、イ、ら、ン、の、如、此、と、し、て、此、等、の、一、九、
し、ら、つ、て、也。地、域、的、に、其、ア、ヒ、ス、ト、ル、カ、ハ、不、明、な、地

域、の、圏、ル、フ、ニ、は、全、口、的、に、地、域、的、は、有、力、な、と、思、ひ、
然、し、一、定、の、市、勢、力、圏、と、し、て、記、録、さ、し、て、お、く、べ、し、
た、の、~~勢~~勢、の、社、会、~~勢~~勢、は、一、の、都、市、生、活、~~勢~~勢、

勢、~~勢~~勢、の、都、市、勢、力、~~勢~~勢、の、順、次、に、其、地、
域、的、大、い、て、を、振、大、し、て、居、る、と、は、お、へ、な、い。

北、院、の、教、力、~~勢~~勢、は、北、院、の、支、配、~~勢~~勢、と、
同、一、又、は、少、さ、い。又、多、く、支、配、~~勢~~勢、と、

同、一、又、は、少、さ、い。又、多、く、支、配、~~勢~~勢、と、

云々として強治上の支配(國)は政治的支配
國とは田舎の大領域を有して今下の世に於
て都市を擁護するがその今下の其
落下を支配して國領に於ては國土
柄の國領に於てしつと脱離する事であ
る。

交通(國)は若し都市に依
るものより先沈むる事人の所位
ある(國)として脱離する事である。

交通(國)は現代の特殊な小作(交通)の
交通(國)はもとより、交通(國)

交通(國)は現代の特殊な小作(交通)の
交通(國)はもとより、交通(國)

大伴

非^非 先生活は明かしてある
都市の上の社会的交流が著しく
多くなるとは(著)

都市の生活(著) 三三インテリストエリヤ
ツリートエリヤ

七 利用者の範疇は異なり、
都市の生活は著しく社会関係は
拡大のあつたところである(著)
以上、市民と同様生活をするよ
し自他者し許し、市民と同等ではな
く、生活の主要な部分に於いて都市
に異なり、色有して片の居住する(著)
以上の人にかゝるな能く先生活を営む
には、考慮外におき都市を是の人を
政に直接支配して(著) 直接支配
を有するは新しい社会を築く

長中心の上級機關とする。予後官庁

共體及民子企業等の地域の支配関係

を始らむにせむのは都市^{支配}圏の確

定(内外)である。

五、都市を中心とする。マス・コミュニケーション

の地域については既に色々の調査結果

が示されて居る。然し、予後地方政

治の放逐的取立の地域、地方新団

體等の地域の如きは予後目的のため

に調査をせむべきである。

此都市の外圍に及ぶものは、社会圏として

は従来の都市社会が最も力を下せる

この頃とあるが、年をふかへ、片方の同じ、其の多い。

五二二九

研究領域である。本年、そのほか、市
各局の業務、研究発表、目録、
巻頭、目録、そのほか、多い。